



平成30年度

第十三回

主	青	稲
張	少	敷
大	年	市
会	の	Inashikishi seisyonen no syucyo taikai

作文集

青少年の声に
耳を傾けてみませんか？





青少年育成稲敷市民会議
会長 矢崎 克実

いあいさつ

青少年育成稲敷市民会議の運営に対しましては、市民の皆様からいつも多大なご理解とご支援をいただきまして心より厚く御礼申し上げます。

また、過日、本会の顧問である田口久克市長がご逝去されました。ご生前を偲び悲しみに絶えません。故人のご冥福をお祈りいたします。

さて、本年も関係各位の皆様にご協力を賜りまして、青少年の主張大会を開催する運びとなりました。本年は回を重ねて第十三回をむかえます。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と重ねて御礼申し上げます。

本年も、小学生四名、中学生八名、高校生二名の計十四

名の皆様が発表してくれま
す。それぞれに運動会や体育祭
その他各種行事が錯綜する忙
しさの中でご準備をいただきま
した。発表者はもちろんのこ
と、指導に当たられた先生方
にも大きなご負担をお掛けい
たしました。ここに改めて感
謝を申し上げます。

今回の発表では、学校生活
や家庭生活といった身近な生
活のなかで感じた経験や、社
会や世界の動きを読書や報道
で知り得ていく中で見つけた
問題について、それぞれが真
摯に向き合い、深く考え、そ
れを自分自身の言葉で表現し
てくれています。その内容の
すばらしさに、あらためて教
わることや深く考えさせられ
ることがあり、また心あたた
まる思いもしました。このよ
うな発表ができる子供達の未
来に、大いに期待すると共に、

明日の稲敷市に心強い思いを
抱きました。

本日は、児童・生徒が皆様
の前で、そして自らの声で
堂々と発表してくれま
す。どうぞ一人一人の「生の声」に
耳を傾け、その心をしっかりと
受けとめていただきたいと
思います。

最後になりましたが、事務
局の方々をはじめ、市民会議
の関係者の皆様、教育委員会
の方々、ご指導いただいた各
学校の先生方、会場にきれい
な花を飾ってくださいました江
崎総合高等学校の皆様、この
日のために日々練習を重ねて
いただいた東中学校吹奏楽部
の皆様、それぞれにお忙しい
なか、このすばらしい青少年
の主張大会に向けご尽力いた
だいたこと、心から感謝申し
上げます。

ありがとうございました。

目次

■ごあいさつ

青少年育成稲敷市民会議

会長

矢崎 克実

1

作文発表表

小学生の部

1 陸上を通して学んだ事

高田小学校

六年

稲 箸

柑 南

4

2 「命」を考える

新利根小学校

六年

宮 本

舞

6

3 住みやすい浮島を守るために

浮島小学校

六年

宮 本

美 穂

8

4 努力は自信の源

あずま東小学校

六年

山 口

衿 紗

10

中学生の部

5 協力から学んだこと

江戸崎中学校

二年

岡 野

由 依

12



高校生の部

- | | | | | | |
|----|---------------|-----------|----|------|----|
| 6 | 「人として」を大切に | 江戸崎中学校 | 三年 | 石川智尋 | 14 |
| 7 | 広がる世界、変わっていく私 | 新利根中学校 | 二年 | 遠藤理緒 | 16 |
| 8 | 病気になって学んだこと | 新利根中学校 | 二年 | 中村和寛 | 18 |
| 9 | 部活動の体験を通して | 桜川中学校 | 三年 | 宮本雄太 | 20 |
| 10 | 会話の大切さ | 桜川中学校 | 三年 | 根本ころ | 22 |
| 11 | あの日みた夢 | 東中学校 | 二年 | 黒田七海 | 24 |
| 12 | 言葉が招く差別 | 東中学校 | 二年 | 宮島彩綺 | 26 |
| 13 | 人間関係について思うこと | 江戸崎総合高等学校 | 一年 | 小野美空 | 28 |
| 14 | 社会人になるための心構え | 江戸崎総合高等学校 | 三年 | 宮本大和 | 30 |

1 陸上を通して学んだ事

高田小学校 六年 稲箸いなはし 柑南かんな

私は、陸上を三年生の春から始めました。始めたきっかけは、父が、「陸上やってみる？」と言ったのが始まりでした。

私に陸上の楽しさを教えてくれたのが三年生のときの第十一回稲敷市スポーツ少年団駅伝大会でした。三、四年の部で第四区を走りました。私は初めての駅伝で、とても緊張して顔が真っ青になるほどでした。私が走っていてつらいとき、仲間の応援があったのががんばれました。五区の子に一位でたすきをわたし、そのまま一位でゴール、私は感動して、うれしくて涙が出てきました。仲間の応援からこんなにも力がもらえるとは、思いませんでした。メダルや賞状をもらうことや、仲間と共に協

力する喜びを味わい、陸上が楽しくなってきました。

私が初めて挫折を経験し、練習の大切さを学んだのが五年生のときに、水戸の陸上競技場で行われた水戸市陸上競技選手権大会でした。初めてリレーの第一走者になり、とても緊張していました。スタートをしたしゅん間に、私は転んでしまいました。仲間への申し訳なさど悔しさで目の前の景色がだんだんゆがんできました。レースの後、仲間に何度も何度もあやまりました。

その後、仲間が、「大丈夫だよ、それより足いたくない。」とやさしく声をかけてくれました。

失敗した私を責めず、それどころか、

心配してくれた仲間感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この時、私は初めて挫折を経験しました。このことから、二度と失敗しないように、練習を本番だと思つて取り組もうという気持ちになりました。

今年の六月に全国大会につながる県大会があり、走り高跳びに出場しました。自己ベストを大きく更新し、百三十六センチメートルの大会新記録で優勝することができました。うれしさのあまり、思わずガッツポーズが出てしまいました。この日のために練習を積み重ねたこともありませんが、あの時の悔しさど、仲間の優しさのおかげだと思つています。

全国小学生陸上競技交流会では、



今まで練習してきた成果と、仲間の

優しさやはげましのおかげで全国第六位になることができました。よい記録が出たのは、暑い日も寒い日も熱心に技術面やメンタルを強くしてくださったコーチのおかげです。それから、陸上の仲間が応援してくれたからです。そして家族の支えがあったからです。練習から帰ってくると、おいしいご飯をつくってくれ、私が練習であつたできごとを話すと、祖母と母は、真剣に聞いてくれました。父は、ふみ切りのアドバイスをしてくれました。陸上の記録会にも朝早くから連れていってくれました。私が陸上をできるのは、たくさん

ます。



2 「命」を考える

新利根小学校 六年 宮本 舞

「戦争がなかったら、舞は生まれていないかも知れないよ。」

兄を戦争で亡くした曾祖母が家に残って曾祖父と結婚したそうです。もし、戦争がなかったら、曾祖母は家を出ていただろうから、祖母も母も私も生まれていなかっただろうというわけです。

祖母にこう言われて、私は不思議に思いました。私の知っている戦争は、多くの人が家族や友人、家をなくした悲しい出来事です。それが自分の命とつながりがあることにとってもおどろきました。私に与えられた命は一つきりだけど、この命は数えきれないくらい命があったからこそ生まれきたということなんです。そう考えると、命がより尊いものと思

えてきました。そして、今までも「命を大切にしないさい。」と家族や先生に言われていますが、命を大切にするのはどうということなのかを改めて考えてみました。

図書館で「命と電池は似ているけれど、命は電池とちがって、取り替えることはできない。」という詩を読み、本当にそうだなと思いました。取り替えのきかない、一度きりの人生だからこそ、前向きな気持ちで、後悔しないような道を選んで、環境を整えることが必要だと思えます。そこで、小学校六年生の私にできることは、自分の夢に向かって一生懸命努力することだと考えました。私には、医師になりたいという夢があります。きっかけは、病院がテー

マのドラマの影響でしたが、「お医者さんに行けば病気が治る。お医者さんてすごいなあ。」というあこがれは、小さい頃からもっていました。そして、学年が上がるにつれて、人の役に立つような仕事をしたいと強く思うようになると同時に、「尊い命を大切に」医師という夢が大きくふくらんできました。

私が目指すのは、知識や技術をもっているだけではなく、患者の心に寄りそうことのできる医師です。そう考えたのには、私が出会った二人のお医者さんの存在があります。一人目は、私たち兄弟三人を取り上げてくださった産婦人科の先生です。母はその先生をとて信頼しています。別の用事で病院に行っても、



必ず産婦人科に立ち寄ります。その理由を母に聞くと、

「出産は何度経験しても不安だけど、いつも穏やかな笑顔で、優しく寄りそって力強く支えてもらったのがうれしかったから、今でもお目にかかりたくなる。」

と話していました。先生は私たちの名前を覚えていて、近況をたずねてくださいるそうです。

二人目は、職業調への宿題でお世話になった消化器内科の先生です。しんりよりの合間の少しの時間だったにもかかわらず、私の目を見ながら真剣に、そして穏やかに、ていねいに答えてくださいました。その中で印象的だったのは、仕事をしていて一番うれしかったことに、患者さんが元気になって退院していくこととおっしゃっていたことです。私は患者さんが元気になって退院できるのは、先生の知識や技術だけでなく、温かい人柄が患者さんの心や体をよ

り健康にしているのではないかと感じました。

二人の先生から、温かい心は人を元気にする力があることを学びました。私も先生方のように体だけではなく心も元気にできるような医師になりたいと思いました。そのためには勉強だけでなく、いろいろなことに挑戦したり、経験したりしながら、前向きで強い気持ちを育てたいと思います。そして、友達との出会いや人とのつながりを大切にして、心と心の交流を深めながら、温かい心を大きくしていきたいです。さらに、家族と過ごす時間も大切にして、命のつながりや健康のありがたさも忘れずにしたいと思います。

命を大切にするということは、自分を大切にすることだと私は考えます。「自分の目指す自分」に向かって、様々なことに、あきらめずに挑戦し、前進していきたいと思っています。



3 住みやすい浮島を守るために

浮島小学校 六年 宮本 美穂

今年は例年になく暑い日が続き、

私の住む浮島でもスイカが育たなかったり、野菜の育ちが悪かったりと、異常気象続きの毎日でした。テレビのニュースを見ても、異常気象で大雨による洪水や土砂くずれによって、家や町がこわされていく様子をよく目にしました。日本だけでなく、世界各国でも巨大ハリケーンが発生したり、逆に全く雨がふらずに水不足が深刻になったりしています。異常気象は日本だけの問題ではありません。この異常気象には、地球の温暖化が関係しているとテレビで聞きました。異常気象がこんなにも続き、私達が大人になるころの地球がどうなるのでしょうか。大丈夫なのでしょうか。

地球温暖化は温室効果ガスが増えることよって起こります。温室効果ガスとは、二酸化炭素やメタン、

フロンなどのガスです。このガスが増えることよって地球の気温がじわじわ上昇していき、地球温暖化となっていくそうです。

では、地球温暖化の原因には何があるのでしょうか。大きく分けると、三つあるそうです。

一つ目は、車の排気ガスです。現在は車社会です。そのため、排気ガスがたくさん出ます。そうすると、二酸化炭素が大量に排出され、温室効果となっていくそうです。

二つ目は、森林の減少によるものです。森林は二酸化炭素をすって、酸素を出してくれます。森林ばっさ

いにより、二酸化炭素をすってくれ
る木が減ってしまうので温暖化にな
がるそうです。

三つ目は、私達がたくさん電気を
使っていることです。私達の生活に
は、電気製品は欠かせません。その
ため、発電所でたくさん電気を作
るようになります。この電気を作る
時に、たくさん二酸化炭素ができ
るそうです。

車や電気製品を使うことは私達の
生活に欠かすことはできません。で
も、これらをたくさん使用すること
により地球の温暖化が進んでいるこ
とを学び、とても残念に思いました。

地球温暖化を止めるには、どのよ
うな努力が必要なのでしょう。調
べてみたら、多くの国々の人が、地



球温暖化のために行動を起こして
ました。それぞれの国の人達が自分
達の国で二酸化炭素を減らすために
できることを考えています。私達の
生活の中でも、一人一人の小さな行
いで二酸化炭素の量を減らし、地球
温暖化を防止できることがあること
を知りました。

それは、自動車の利用量や電気の
使用量を減らす努力をすることです。
近場に行く時は自転車を利用したり、
歩いたりすること、電気もこまめに
消し、使用していないコンセントを
ぬくことができるそうです。実際に
やってみようとすると、めんどろで、
自分一人がやっても意味がないと思
う人は多いはずです。しかし、「ち
りも積もれば山となる」ということ
わざがあります。これはどんなに小
さなことでも、こつこつと積み重ね
ていけばとても大きなものになる
という意味です。世界には七十億人
も
の人がいます。だから、たとえ小さ

な一人の努力でも、世界七十億人も
の人達が協力できたとしたら、とっ
ても大きな成果となって表われてく
れるはずだと、私は信じます。

私の大好きな浮島の食べ物、こ
れからも残していくために、この小
さな努力を忘れることなく続けてい
きたいと思います。そして、みんな
に呼びかけていく努力も忘れないよ
うにします。日本、そして世界のみ
んなが、少しでも安心して安全に生
活できるように頑張ってほしいです。
この小さな努力が実り、私達の子供
や孫の世代になっても、安心して生
活できる地球になっていってもらい
たいと強く願います。



4 努力は自信の源

あずま東小学校 六年 山口 衿紗
やまぐち えりさ

「練習、終わったー！」

ガッツポーズをしながら、充実した気持ちで、ミニバスケットの練習を終わらせると、友達から、

「衿紗って、なんか変わったよね。」
と言われました。そんなことを言われるようになったのは、あるコーチのおかげなのです。

私は、母にすすめられ、ミニバスケットボールクラブに入団することになりました。もともと、体を動かすことが苦手で、入団当初は、

「勉強するから……。」
と言い訳をして、練習を休んだ日もありました。でも、自主練習に行ってみた日、私の中の何かが変わりました。

初めての自主練習の日、私は何を

してよいのか分からず、とまどっている、コーチが

「ちょっとそこから打ってみな。」

と、指をさした先は、スリーポイントラインというロングシューターがシュートを打つポイントでした。「こんなのできるかな。」と自信なさげにシュートを打ってみると、リングにも届きませんでした。しょんぼりした私を見て、コーチが、
「自分の打てる範囲を探せ。いろんな所から打ってみる。」

そう言葉をかけてくれました。私は、はっとしました。「そうか。べつにそんなに遠くなくても、自分の打てる所から慣らしていけばいいんだ。」その瞬間、私の心にポツと「やる気」の小さな火がついたのです。

私は、その日から「努力」をしてみることになりました。今までの不安や練習に参加したくないという気持ちとは、ちがう感覚を肌で感じていました。

ある日の練習最後のミニゲームの時、
「練習してきたシュートをやってみる。」

コーチの一言に、私はドキドキが止まらなくなりました。そのゲーム中、私は、パスはもらったものの、シュートがリングに届かず、くやしい思いをしました。コーチに、

「だめだ。だめだ。もっとひざを使わないと。」

そう言われた時、私はもう心が折れかけていました。でも、初めての自



主練習の日から、練習するたびに、自分の反省点が見つかり、さらにながらばってみようと「努力」を積み重ねてきたことが、「自信」という形で心の中にふくらんでいました。その時の私は、ふんばることができませんでした。自分自身が成長したと感ぜられませんでした。

これまでの私は、「自信」がなくて、どこか気持ちのぬけた練習がほとんどで、だから、練習をいやになってしまふんだなと気付きました。また、どんなにつらかったり、大変だったりしても、自分のためだと思って練習に取り組めるようになりました。

今さらですが、コーチは、もしかしたら、そのことを分かっている指導してくれたのかもしれない。私は、この経験を通して「努力することのつらさと楽しさ」を学びました。このことは、勉強にも役立つので、がんばった分だけテストでよい点がとれたり、先生にほめてもら

えてとてもうれしかったりします。コーチの言葉はきびしくて心が折れそうになるけれど、いつも自分が生きていく上で大切なことをきちんと教えてくれます。そう思えるようになって行く練習後の充実感は、どんなつらい練習も一瞬でふきとばしてくれるようでなんとも言えません。

この話を母にしたら、母にも、自分を変えてくれた人がいたことを話してくれました。聞いているうちに、自分が成長できたうれしさや努力することのつらさや楽しさ、そして、人とのつながりを感じた時の心の温かさなどを母と共有できたように、うれしくなりました。これらのことを教えてくれたコーチは尊敬できる人です。

みなさんには、自分を変えてくれた人がいますか。また、その体験を通して、成長することができましたか。私の話が、みなさんが身近な人との関わり方や自分の生き方を考え

る参考になるとうれしいし、みなさんの力になれたらいいと思います。「努力は自信の源」これからも努力を続けて成長していきたいと思えます。

5 協力から学んだこと

江戸崎中学校 二年 岡野^{おかの} 由依^{ゆい}

みなさんは、何か大切にしている言葉がありますか。その言葉について、深く考えたことのある人は、多くはないのでしょうか。

私は、「協力」という言葉を、あ
る出来事から大切にしています。そ
れは、江戸崎中学校で毎年行われて
いる、合唱コンクールでのことです。
私は昨年、クラスの中でパートリー
ダーという役割についていました。
私のクラスの目標は、賞を取ること
で、毎日一生懸命に練習に取り組ん
でいました。しかし、全員が練習に
やる気を出してくれるわけではな
く、面倒くさい、どうでもいいなど
と、練習中にふざけたり、歌ってく
れなかったりする人が数人いました。
私は、一人一人が努力するからこそ、

良い合唱ができると思っていたの
で、とても残念に思いました。それ
は、合唱コンクール一週間前になっ
ても全く変わりませんでした。しか
し、私は、みんなに嫌われてしま
うのではないかと臆病になり、注意を
できずにいました。

そんな時、先生方が、他のクラス
の合唱を聴く機会を作ってください
ました。そこで、私は今まで以上に
危機感を抱きました。他のクラスの
合唱は、一体感があり、歌から団結
力が感じられました。そして私は、
一人一人が努力すればよいというこ
とではなく、みんなで心を一つにし
て、協力し合うことが大切なんだ
ということに気付きました。今の私
のクラスだと賞を取る以前に、協力

し合うことすらできずに終わってし
まうと思い、やる気を出してくれな
い人に、思い切って注意をしました。
最初は全く聞いてくれませんでした。
そこで、先生に相談したり、パート
リーダーが集まって話し合ったりし
て、みんなが一つになる方法を考え
ました。本気になっていない人の前
で、リーダーが一生懸命歌う等のこ
とをしました。あきらめずに様々な
方法を続けていくうちに、話を聞き、
みんながきちんと練習に参加してく
れるようになりました。先生方や他
のクラスの人たち、パートリーダー
の人たちのおかげで気付けた部分が
多く、協力し合える一致団結したク
ラスへと成長することができたので、
とても感謝しています。



合唱コンクール当日の朝、最後の練習が終わり、クラスのみんなで円陣を組むことになりました。全員の心が一つになっていく気がして、とてもうれしくなりました。気合いを入れ円陣が終わり、遂に私のクラスの順番が来ました。ステージに立つ

と、みんなが緊張しているのが分かりました。私はみんなに微笑みかけました。合唱中は、みんな笑顔で一週間前とは全く違う合唱を発表することができ、合唱後のみんなの表情からは達成感が感じられました。協力し合うことで、こんなにも変わる事ができると、たくさんの人に知ってもらえたことだと思います。

結果は、見事賞を取ることができました。一人では難しかったことも、周りの人と協力するだけで、何倍もの力になります。協力なんて、まず一人一人が頑張ればすむことではないか、と思う人もいるかもしれませ

ん。しかし、みんなで協力して何かを成し遂げた時の達成感は、とても気持ちが良いものだということ、たくさんの人に知ってもらいたいです。そして、私の周りに一緒に協力してくれる人たちがたくさんいることに、感謝したいです。

私は、今年もクラスの中で、パートリーダーの役割につくことになりました。今年は、パートリーダーとしての責任をきちんともちたいです。そして、みんなが「この人にならついていける」と、信頼してもらえようなパートリーダーになりたいです。昨年経験したことを生かして、クラスみんなに、「協力」することのすばらしさを知ってもらえるように頑張りたいと思います。そして、「協力」という言葉と、一緒に協力してくれる仲間を大切にしたいと思います。



6 「人として」を大切に

江戸崎中学校 三年 石川 智尋

私は看護師になりたいという夢をもっています。きっかけは、私の家族にあります。母は私を産んですぐに体調を崩してしまったため、私は父方の祖父母に預けられました。小学校高学年になり、高齢である祖父母のために私が通院や入院に付き添うこともありました。祖父母に付き添う中で、看護師という職業に出会いました。自分の足で歩くことが困難な祖母に優しく付き添い、退院する最後の日まで丁寧な、そして自然にお世話をしてくださった看護師さんの姿にあこがれを抱きました。

私は、人と接し、人と関わるのが好きです。その人のよいところや魅力を見つけることを大切にしています。人と接するときには、相手に

対して偏見をもたず、相手を思いやる気持ち大切にしているつもりです。そんな私は看護師に向いていると思っただけで生きてきました。

中学生になって、社会問題になっている「少子高齢化」について考える機会がありました。高齢者が増えてきている今、病院に入院したり老人ホームなどの施設に入所したりする人が増えています。そんな中で私が看護師になったらどれだけの人が手助けできるのだろうと考えてしまふようになってきました。また、病気になるって子どもがいて、その子どもをどれだけ自分が救えることができるのだろうかとも考えてしまふいます。成長するにつれ、自分に自信がなくなり、自分は看護師に向

ているのかと考えるようになりまして。そして、だんだん看護師になりたいという夢にも自信がなくなってきました。

そして、三年生になり、新しい担任の先生に出会いました。四月最初の学活で、先生は私たちに次のような話をしてくださいました。「新しい環境は自分を変えるチャンスだ。そのチャンスを生かす人を応援できる集団、支えてあげられる集団、認め合える集団であってほしい。その時に、「人として」という言葉を大切にしてほしい。「人として」の思いや生き方を身に付けてほしい。」この話を聞いたとき、今この瞬間が自分を変えるチャンスだと思ふと



時に、「人として」という言葉が心に強く響きました。人と接することが好きで、相手を思いやる気持ちを大切にしてきた自分のことを思い出しました。「人として」相手のことを考えて生きてきた自分、そしてこれからもその気持ちを大切に生きていきたいと強く思うようになりました。

先生のお話の中にはたびたび「人として」という言葉が出てきます。先生は、人はいろいろ失敗したり不満があつたときに他人を責めてしまうこともあるけれど、どんなときも「人として」の思いを大切に生きる方を忘れてはいけなくと私たちに伝えたいのではないかと思います。そんな先生の思いを受けて、私たちの学級の学級目標は『「人として」を大切に未来のために今後頑張る』と決まりました。この目標は、これから大人になっていく私たちが、「人として」の生き方を身に付けるため

に今やるべきことに丁寧に取り組んでいこうという思いが込められています。今の私が看護師になるためには、足りないことがたくさんあります。それは、学校の勉強としての知識でもあり、「人として」の生き方をしっかりと身に付けていくことでもあります。これからの中学校生活、そして卒業後の生活で少しずつでも成長していきたいと思っています。

「人を手助けできる看護師になりたい。」

これが私の今の夢です。看護師になるために、「人として」人を思いやり、身近な存在として支えられる人になりたいです。そのために、今一番近くにいる人たちを大切にしていきたいです。



7 広がる世界、変わっていく私

新利根中学校 二年 遠藤^{えんどう} 理緒^{りお}

みなさんは、新しい環境の中で生活して、ふと、自分が変わったなと思ったことはありませんか？

私は、中学校に進学し、様々な物事に触れ、これまでとは違った環境の中で生活するようになり、自分が変わったと思うことがあります。私を変えてくれたのは、部活動です。小学校時代、私は、限られた友達との交流がほとんどで、上級生や下級生と関わり合うことはあまりありませんでした。小学校の低学年の時は、四つ違いの姉の同級生や、同じ登校班の人たちと、たまに話をする程度で、自分から進んで話すことはありませんでした。

しかし、中学校で吹奏楽部に入学して、みんなと同じ目標に向かって、

日々練習を重ねる中で、自分の世界が広がっていくことを感じました。

吹奏楽部での先輩方との出会いは、

私の世界が広がった大きなきっかけでした。これまで一度も話をしたことがない先輩、二、三度言葉を交わした程度の先輩、中には、全く知らない先輩もいて、気軽に話せそうな先輩など、一人もいませんでした。だから、先輩方はどんな人たちなのだろう、怖い人かな、うまく話ができるだろうか、コミュニケーションをとることが少し苦手な私は、とても不安でした。しかし、そんな私の不安は、すぐに消えました。体験入部での、先輩方の優しく、丁寧な教え方、誠実な対応は、私の不安や心配を吹き飛ばしてくれました。そ

れからは、先輩方との時間は、私にとって、楽しくて大切な時間になりました。

先輩方との時間や関わりだけではありません。吹奏楽部の活動は、同級生との関係も、大きく変わってきました。もともと小学校の頃から仲がよかった同級生ですが、吹奏楽部という同じ部活に入ったことで、それまでとは違った友達のように気がつくようになりました。小学校の頃は、あいさつをする、何かを尋ねられれば、自分の知っていることを答えるというように、今思えば、必要最低限の会話で済ませていたのかもしれませんが。それが、音楽という共通の話題が生まれ、どうすればもっとよい音が出せるか、どこを工夫すれば



さらに美しいハーモニーを奏でられるか、時間を忘れて延々と話していることもありました。中学校への進学は、ほとんど同じメンバーだったので、皆とのつきあい方や友達関係は、中学校でも大して変わらないだろうと思っていました。でも、様々な行事やコンクールのための演奏、その練習を通して、たくさんの貴重な体験を積み重ね、同級生との関係は、濃密なものになり、私の世界が、どんどん広がっていくことを感じました。

二年生になり、吹奏楽部に後輩ができました。自分が先輩方に優しく、丁寧に教えてもらって、たくさんの安心感をいただいたように、私自身も、誠実に後輩との交流を重ねました。先輩、同級生、そして、かわいい後輩達、皆と一緒に話すことは、こんなにも楽しいものなのだと思います。同時に、自分がどんどん明るくなっていく気がしました。



私はこれから高校、大学に進学したいと考えています。それは、知識を深め、交流関係を広げたいからです。そうすることで、自分の中の世界を広げ、その世界の中に潜む多く

の可能性を、見いだしたいのです。変わる環境の中で、様々なことに挑戦し、自分の世界や可能性を広げていきたいと思っています。

8 病気になるって学んだこと

新利根中学校 二年 中村 和寛
なかむら かつひろ

今年三月、中学一年ももうじき終わるといふまとめの時期に、僕は、脳出血を引き起こし、入院しました。なぜ、脳出血を引き起こしたのかというと、この時初めて分かったことなのですが、僕は、生まれつき、脳動静脈奇形という病気をもっていたのだそうです。脳動静脈奇形というのは、脳の中で動脈と静脈が複雑に絡み合ってしまう病気で、その病気が原因で、脳出血を起こしてしまっただということでした。

三月のある朝、いつものように目を覚まし、起き上がろうとしたとき、吐き気と頭痛に襲われました。インフルエンザが流行っていた時期だったので、初めはインフルエンザを発症したのかと思いました。市民病院

に行つて診察してもらおうと、胃腸炎ではないかと言われ、僕は、すぐに治るだろうと思いましたが。しかし、吐き気と頭痛はそれから何日も続いたため、別の病院に行きました。ここでは「原因は分からない。」と言われました。翌日、頭痛はますます酷くなり、大きな病院に行つて診察を受けると、「すぐに、入院してもらいます。」と言われ、そのまま入院しました。

吐き気と頭痛から食欲がわかず、何も食べられない日が続いていたので、栄養は全て点滴で補充しました。少しずつ食事がとれるようになったある日、僕は、これまで経験したことのない痛みを伴う検査をしました。右足もものつけねから、カテーテル

を脳まで通し、薬を流すという検査でした。検査に対する不安や緊張は、言葉では言い表せないほど大きなもので、自分の意志とは関係なく、痛みのために涙が止まりませんでした。

大変な検査や初めての入院で、不安な毎日でしたが、そんな僕を支えてくれたのは、病院の先生や看護師さん、そして、両親でした。病院の先生は、「この検査が終わったら、三日後には、退院できるからね。」と励ましてくれ、看護師さんは、いつでも優しく声をかけてくれました。両親は、毎日病院に来てくれました。父は、僕が入院している間は仕事を休んで、病院に通ってくれました。両親がいつでもそばにいてくれるという状況は、僕にとって、とても安



心できる環境でした。

入院してから二週間ほどで、僕は自宅に戻って静養し、四月の下旬には、学校に通うことができました。激しい運動をしなければ、普通に生活してもよい、ということでした。

僕はこの夏休みに、脳動静脈奇形の治療を受けました。東京の築地にある病院に三日間入院し、ガンマナイフという放射線を使った治療を行い、治療は無事に成功して、三つのうちの一つの脳動静脈奇形が治りました。僕自身もほっとしましたが、僕以上に両親は喜んでくれました。

この体験を通して、僕は、これまで考えなかった二つのことに気付きました。

一つ目は、健康でいられることのでありがたさです。これまで大きな病気をすることがなかった僕は、自分の病名や病状に驚き、当たり前前に生活したり運動したりすることが、どれほど幸せなことなのかを感じまし

た。

二つ目は、僕は、周りのたくさんの人たちに支えられているということとです。僕のことを心配し、大切に思ってくれてくれる両親、家族、治療してくれた病院の先生や看護師さん、僕を待っていてくれた友達など、本当にありがたい存在です。

病気になったからこそ分かった、この二つの思いを忘れずに、これからの生活に生かしていきたいと思えます。



9 部活動の体験を通して

桜川中学校 三年 宮本 雄太
みやもと ゆうた

私は受験生です。高校入試まであとわずかです。英語や国語などの苦手教化の克服と、実力テストでの点数の大幅アップを目指して頑張っています。私は、必ず、目標を達成できると考えています。こう考えられるようになったのは、部活動の体験があったからです。

私は、一年生から三年生までの三年間を、ソフトテニス部で活動しました。ソフトテニス部に入ったのは、運動があまり好きではなかった私にとって、他の部活動は合わないと思っただけという消極的な考えからです。一年生の時は、始めたばかりだったので、少しでも打てるようになる楽しさを感じました。近所の友人もソフトテニス部だったので、よく近

くの駐車場などで練習をしました。しかし、市の新人戦ではペアを組んでいた友人任せで、自分から「勝ちたい」、「強くなりたい」、「頑張りたい」という気持ちにはなれませんでした。

二年生の後半、三年生が引退して最上級生になりました。先輩方がいなくなり、しつかりしなくてはと思い始めました。先輩方がやってきたこと、例えば、試合中にペアがミスをしたら、「次、がんばろう。」と声をかけたり励ましたりできるように意識をし、取り組みました。先輩への声かけや面倒を見るなどもできるようになりました。何よりも、自分から積極的に声を出し、練習に取り組むようになりました。

そうしているうちに、普段の学校生活でもしつかりしようと思い始めました。先生に「普段の生活をしっかりとすることが部活動に繋がってくる。」

と言われたこともありましたが、きちんと生活していた先輩方の姿を思い出すと、「真似しよう」「あんなふうになりたい」と思えたからです。このようなことは、それまでは考えてみたことはありませんでした。二年生の新人戦では、ペアと力を合わせ、精一杯二人で勝負に挑むことができました。

学年が上がり、引退まであと三カ月となった三年生。私の意識はさらに大きく変わりました。それは、チームメイトの部活動への取り組み



や雰囲気、最後の総体に向けて真剣そのものになっていったからです。以前よりも「自分もがんばろう！」「しっかりと取り組んで、後輩にこの姿を残そう。」と思うようになりました。練習試合では、まだまだ力が足りない自分を感じ、焦りが出ました。しかし、負けそうになったり、ミスが続いたりしたときでも、声を出し、下を向かず、元気な姿でいることに努めました。その結果、うまくいかないときでも、「次へ、次へ。」という気持ちで頑張ることができました。

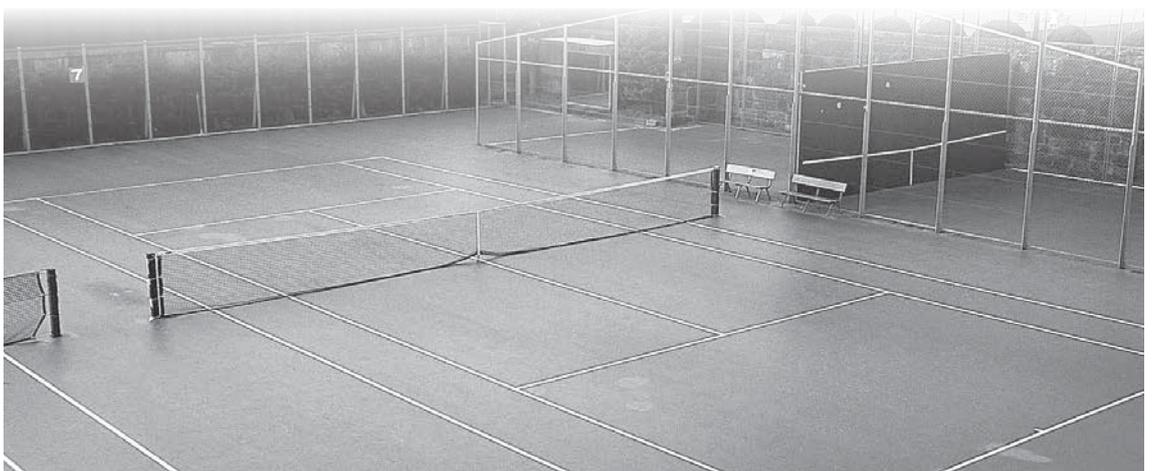
三年生、最後の総体は、悔いなく終えることができました。しかし、思い返せば、気持ちの部分でもっと自分を鍛えていれば良かったとか、もっと技術的に上手くなるうとする努力ができたのではないだろうか、などと考えることもありました。

それでも、大きく成長した自分を感じることができました。まず、

「やってみよう」というチャレンジ精神を持つことができるようになったことです。例えば、この青少年の主張大会の発表も以前なら、すぐに断っていたと思います。しかし、「チャレンジしよう。」と考え、すぐに引き受けることができました。

次に部活動を通して、苦手なことでも努力をすればできるようになることを知り、勉強でも頑張ってみようと思えたこと。さらに、生活態度が変わり、自分から積極的に挨拶ができるようになったり、自分に自信を持ち堂々と過ごすことができるようになったりしたことです。

このように、大きく成長した自分を感じることができると、目の前に迫ってくる受験も、克服できると今は考えられます。部活動で、「もっとがんばっておけば良かった」と悔やんだ経験を生かし、受験ではそのようなことがないように、取り組んでいきたいと思えます。



10 会話の大切さ

桜川中学校 三年 根本^{ねもと} ころろ

近年、携帯電話やインターネットの普及により人と人が直接会話を交

わす機会が減ってきています。友達に何かを伝えるにしても、携帯電話のラインでは言えるけれど、直接顔を見て言うことはできないという人も少なくありません。私は生活していく中で、会話をすることは最も重要なことだと思っていて、心がけてきました。

私の家では、通常、テレビをつけません。食事をする時には、「この料理、おいしいね。どうやって作ったの」

「今日、学校でこんなことがあったよ。」

など、何気ない会話をしています。母が、

「今日、仕事場で失敗しちゃったんだ。」

と、私達の目の前でしょんぼりすることもあります。母のそういう話を聞いたり、話すなどしている姿を見たりすると、（大人になっても失敗したり、落ちこんだりすることがあるんだな。）と、教えられます。両親もまた、食事中の会話によって子ども達の表情や話す様子を感じとり、SOSの信号を見逃さないようにしているようです。

自由な時間の時にも、テレビをつけていないというだけで、多くの会話が生まれます。見たい番組がある時だけテレビをつけるという習慣は、私が家族を持つようになってからも続けていこうかなと思います。

私は、小学校四年生の時に、稲敷市に引っこしてきました。以前は都

会のマンションに住んでいた為、隣や同じマンションにどんな人が住んでいるのか全く分からず、時折エレベーターやマンションの入口で住民と思われる人と顔を合わせても挨拶をすることはありませんでした。その環境が子どもながらにとっても不安で、帰宅する時はいつもかけ足で玄関まで走って行きました。稲敷市に引っこしてくると、環境は一変し、知らない近所の方々から、

「おはよう。いってらっしやい。」
「雨が降りそうだから、急いで帰りなさい。」

などと、声を掛けられるようになりました。初めはとまどっていました



が、声をかけられることで、顔を覚え、どこの家の人なのかを覚え、安心感が生まれてきました。そして今では、私の方からも挨拶や声かけができるようになりました。

震災など災害が起きた時には、皆の助け合いが必要です。日ごろから会話をし、顔をお互いに覚えていれば、よりいっそう協力し合えます。やはり、顔を合わせた会話によるコミュニケーションが大切になってくるのだと思います。

近年のトラブルの多くは、顔の見えない相手と文字だけのやりとりをするることによって発生しています。文字だけだと、男の人でも中学生の女の子のふりができるし、中学生でも大人の女性のふりをするができます。顔が見えない、声が聞こえない、というだけで自分とは全く違う人物を装えるのです。こういったトラブルに巻き込まれない為には、やはり顔を見て、直接話す会話を心

がけることです。友達にお礼を言う時も、「ありがとう」の文字より「ありがとう」の表情と声を届けた方が、より気持ち伝わりやすくなります。謝る時も、「ごめんなさい」の文字の言葉より、「ごめんなさい」の声による言葉の方がより謝罪の気持ちが伝わります。

世の中が、インターネットやAIなどで便利になればなるほど、もしかすると人とのコミュニケーションは必要なくなってくるかもしれません。しかし、私は機械では補えないものが会話の中には多く含まれていると思います。これからも、家族や友達との会話を常に心がけて、言葉のキャッチボールをしていきたいと思っています。



11 あの日みた夢

東中学校 二年 黒田くろだ 七海ななみ

「三月十一日」あなたはこれを聞いて、何を思い浮かべますか。私は、人々を恐怖のどん底に陥れた東日本大震災が頭をよぎります。まだ幼かったころですが、あの時のことを今でも鮮明に覚えています。

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分、私は幼稚園でお昼寝の時間でした。その時はぐっすりと眠りに落ち、地震に気付いていませんでした。揺り起こされたときは、先生に抱きかかえられていました。しかし、私はまだ事の重大さがわかっていませんでした。母の車で帰宅すると、食器棚が倒れ、食器の破片が散らばり、棚の中の食器はひとつ残らず割れてしまいました。また、瓦屋根が崩れ、がれきが屋根の下に落

ちていました。軒下を支える木が何本もぶら下がり、屋根から今にも落ちてきそうでした。部屋の蛍光灯も粉々に砕けていました。

その後、大津波に多くの街が飲み込まれてしまったことをテレビで知りました。その津波で多くの人が犠牲となり、亡くなりました。ニュースでは、子供達の避難が遅れて、その場にいた全員が流されてしまったり、津波の様子を見ていたおじいさんが津波に巻き込まれてしまったりする映像が流れ、本当にショックでした。また、家や車が津波に流されたり、流された車が建物の上に取り残されたりする映像を見るだけで恐ろしく感じました。そして、津波に飲み込まれた何千人もの遺体が見つ

かったにもかかわらず、いまだに多くの行方不明者もいることも知りませんでした。

その後も、あの震災は被災地や被災した方々に大きく影響しています。家族を亡くし、孤児になってしまった子供がいます。家が流され、仮の家で過ごす家族もいます。住んでいた地域で暮らせず、別の地域に移った方もいます。そこで、いじめにあう子供もいました。

しかし、様々な困難を乗り越え、明るくたくましく生活される被災者の方がたくさんいます。また、被災地では復興が進んでいます。千年に一度といわれるほどの災害に見舞われながら、なぜこれほど復興することができたのでしょうか。それは、「助



「け合う心」があったからではないでしょうか。私たちの地域は津波には巻き込まれなかったものの、地震の影響で地割れや液化化が起こりました。交通の便がよくない稲敷では、コンビニやスーパーマーケットに行くためにも車を出す必要があるため、買い物にも困難が伴いました。道端には、コンクリート塀の破片がいくつも落ちていました。もし、下敷きになったらと考えると、ゾッとします。しかし、道路の地割れはあつとつという間に修復され、安心して車で出かけられるようになりました。コンクリートのがれきもすぐにきれいに撤去されました。それは、ボランティアや自衛隊の方々がすぐに駆け付けてくれたからです。幼いながら、私も水やおにぎりなどをいただいたことを今でも忘れません。

私のように「助け合う心」に心動かされた人が、他にもいました。三月十一日の震災後、大洗町を拠点と

する暴走族の中心メンバー九人が水戸警察署を訪れ、グループの解散を報告しました。これまでの自分たちの行動を悔い改め、当時十六歳だった総長の少年は、「これまで地域の人に多大な危険と迷惑をかけてきた。今後は震災の復興のためにボランティアをする。」と宣言しました。多くの暴走族メンバーも被災し、避難所生活を送りました。暴走族のメンバーを大きく変えたのは、そこで人の心の優しさに触れたことだということです。

私は、あの震災で助けていただいたボランティアの方々のように、また、被災し、家族や家を失つてもなお他人に優しい手を差し伸べる方々のように、困っている人を迷わず助けられる人になりたいと思います。そして、東日本大震災についてのニュースが本当に少なくなってきた今、あのとき学んだことを確実に受け継いでいきたいと思えます。災害

の多い日本では、いつまた、あのときのように災害が起こっても不思議はありません。私はあの三月十一日のことを決して忘れず、伝えていきます。

12 言葉が招く差別

東中学校 二年 宮島^{みやじま} 彩綺^{さいき}

「女なんだから」「男なんだから。」
これは何度も私が口にしてきた言葉。
この軽い一言がどれだけの人々を苦
しめてきただろう。

私はこの「女なんだから。男なん
だから。」という言葉を友達や家族
によく言っていました。自分ではな
んの悪意もありませんでした。言わ
れた相手も特に気にすることなく受
け流していた気がします。しかし、
本当にそんな人ばかりなのではし
ょうか。時には、傷ついた人もいた
のではないのでしょうか。また、ク
ラスの男子が先生に叱られた時、「男
のくせに泣くなよ。」と内心思いま
した。今思えば女子は泣いてもいい
のに、男子はいけななっておかしな
考えだと思いました。私は「女の子

だから炊事や家事の手伝いをしな
さい。」と言われることがよくあり
ました。その時、あまりいい気分
ではありませんでした。「なんで女
の子だからお手伝いをしなくちゃ
いけないの。」と思いました。でも
それは、「女なんだから」「男なん
だから。」と言っていた私と同じで
はないかと気付きました。自分は相
手にとつて嫌なことを言っていた、
思っていた、と思うと後悔でいっ
ぱいになりました。

世の中には「女なのに」「男なの
に。」という決まりのような考えが
出来ていて、私もそれに何の疑問
も持たなくなっていました。しか
し、改めて、それは差別ではないか
と思ふようになりました。「男の子

だから体力がある。」「女の子だから
体力がない。」というのも、私が見
てきた限りそんなことはなかった
です。それなのに、男子で運動が
苦手なことを気にしている子にと
つて、体力があると決めつけられ
るのは、すごく嫌だと思ひます。

他にも「差別」はあります。例
えば白人と黒人。ニュースではよく
問題になっているのを聞いたこと
があります。自分と肌の色が違
うだけで白人の警官が黒人男性を
凶悪犯と決めつけ、「射殺した」と
ありました。このような差別は、世
界各国で問題となつていま
す。それは間違つてい
ることだと誰もが頭では理解し
ていふと思ひます。しかし、その
ことを正当化する人もいま
す。このよう



「差別」で好きなことを奪われた人、自由を奪われた人、夢を奪われた人がどれだけいたでしょうか。私はその被害の多さを知ったとき、その「差別」に納得がいきませんでした。またとても恐ろしいと思いました。

一九四二年、春。ユダヤ系市民の絶滅計画が行われました。その場所は、アウシュヴィッツ・ビルケナウナチス・ドイツ強制絶滅収容所。そこで、何の罪もない人々を、ユダヤ人という理由だけで大量に殺してしまいました。それはとても残酷で、人間のすぐく醜いものを感じさせます。この場所は、もう二度と同じような過ちが起これないようにという願いから「負の世界遺産」として登録されました。

私は、今まで「差別」ということ、その残酷さをあまり知りませんでした。時には、その人の人生、命さえも奪うということを知りませんでした。今自分が当たり前前に過ごしてい

る日常が差別される人からは奪われてしまうということも。そして、それは心無い一言で、言葉で起こるということを知りませんでした。言葉は時に偏見を生みます。個人の勝手な偏見から、「差別」という言動が生まれます。一度犯してしまった過ちはもう元に戻すことが出来ません。戦争までも引き起こしてしまいます。だから、私は「差別」という過ちを決して犯すことのないように、言葉一言一言に、何気ない行動に留意したいと思います。そのためには、まず、自分が言われたらどう感じるか考えて言葉を選んだり、女か男かとか、親しいか親しくないかなどで、接し方を変えたりしないと決めました。この世界から「差別」をなくすために。



13 人間関係について思うこと

江戸崎総合高等学校 一年 小野^{おの} 美空^{みく}

高校に入学してから数カ月が経ち、毎日を当たり前のように送っていますが、時々ふと思うことがあります。それは人間関係についてです。

私の身の回りには、主に三つの人間関係があります。一つ目は教室での友達との関係です。二つ目は家族との関係。そして三つ目は所属する部活動での関係です。

一つ目の友達との関係は、一緒に授業を受けたり、昼休みにお弁当を食べたりする、「いつもの」標準的な人間関係です。ノートを見せ合い、時には恋愛の話題なども話したりする、高校生活の土台となる人たちのつながりです。

二つ目は、家族との関係です。特に母には私の生活を支えてもらっていて、当たり前かもしれませんが必

要不可欠な存在です。食事や登下校のためのバス代など、精神面以外にも、実際の生活が成り立つように支えられています。

そして三つ目は、私が所属している野球部の人間関係です。現在の女子マネージャーは私一人ですが、引退した三年生まで含めると選手、マネージャー合わせて三十人を超える大きな集団になります。

三つの人間関係は私にとってどれも大切なもので、私が高校生活を送る上で一つでも欠けてはならないものです。強いて言えば、野球部の一員として過ごす時間が長く、運動部の厳しい世界に身を置いていることが印象的ではありますが。

グラウンドで活動している中で、マネージャーとは選手を陰でサポート

する役割だと思っていました。ところが、今では選手や顧問の先生方に支えられて活動できていると感じることが多くなりました。失敗があつて愚痴をこぼす時は同じ一年生の選手が話を聞いてくれて、仕事で分からないことがあると先輩が教えてくれて、友達や家のことなどは監督の先生がアドバイスをしてくれて、振り返ってみると実は私がサポートを受けているんだと改めて感じています。

今、社会ではいじめや自殺など、人間関係が原因でいろいろな問題が指摘されています。私は自分の毎日を振りかえってみた時に、ある共通点に気付きました。それは「相手の顔を見て、声を聞いて、伝え合う大切さ」です。SNSなどで簡単に会



話ができる現代ですが、それによって予想外の誤解を生みだしたり、悲しい出来事が引き起こされたりすることもあると思います。

しかし、私は自分の実体験の中から感じとった「相手の顔を見ること、声を聞くこと、直接伝え合うこと」ができれば、人間関係のマイナス面は減らすことができると思います。文字のやり取りがダメだとは思っていませんし、インターネットを利用する価値は十分理解しています。そこに、私たちが本来持っている力である「感じる」能力が加われば、個性的な人が集まる集団生活も違ったものになってくると思います。顔、声、やり取り、そして感じる力。人間関係でとても重要なポイントだと考えています。教室と家とグラウンドで学んだことを大切に、私の生活に関係のある友達や先生、選手を大切に、これからも高校生活を頑張っていこうと思います。



14 社会人になるための心構え

江戸崎総合高等学校

三年

宮本

大和

将来の進路を決めるに当たり、就

職したいという希望はそれほど迷わ
いませんでした。求人票を見て、自
分に適した仕事は何か、家族や担任
の先生と相談しながら、一つの会社
に目標をしぼり、夢を膨らませなが
ら面接の練習などに時間を使ってい
きました。

ここまでは、私も含めた同級生な
ら誰もが考えたり経験したりするこ
とです。友達と情報交換しながら、
進路指導室に通い、当たり前前の準備
を友達と一緒にやってきました。

しかし、夏休み中のある日、面接
の練習のために登校した私に、進路
担当の先生がふと疑問を投げかけま
した。

「昨日は大きな事件があったね。」

新聞かニュースで見ただろうか？」

その先生がどのような事件のこと
を私に話したのか、よく分かりませ
んでした。しかし事件の内容よりも
もっと違うことに私は気付きました。
それは、世の中で起きている様々な
出来事を私はほとんど知らないとい
うことです。スポーツニュースは好
きなので野球やサッカー、相撲の結
果などをテレビで見ますが、海外の
出来事や経済的なニュース、国会で
どのようなことが議論されているか
など、知らないことがたくさんあり
ました。さらに学校のある稲敷市の
ことも詳しく知らないと感じました。

社会の一員として会社で働き、地
域に貢献する大人になるために、社

会や地域のことを何も知らないのは
マズイと感じました。十八歳から選
挙権も与えられているため、いつま
でも子ども気分ではいけないと学び
ました。今後はテレビやインター
ネットを活用して、教科書の学習以
外にも自分の知識や情報を増やせる
ような努力をしていきたいと考えて
います。

もう一つ、就職活動をしている中
で感じたことがあります。それは自
分の基本的な生活はすべて自分でや
らなくていけないということです。
私は就職できた場合、家を出て寮生
活をしようと思っています。一人暮
らしに対する憧れや期待は高まりま
すが、同時に生活そのものを助けて
くれる家族がないということも忘



れてはいけません。

現在は食事、洗濯、掃除、天気の良い日は登下校の送り迎えを家族に頼んでいます。しかし、今後寮生活をするとなれば、それらはすべて自分の責任においてやらなければなりません。また、体調不良の時に病院に通ったり、電気、ガス、水道などの公共料金の支払いなど、本当に細かいところまで自分で責任を果たさなくてはなりません。社会人になるということは簡単なことではないと痛感しています。

進路指導室で先生方から、家では家族から、様々なアドバイスを受けてようやく社会人になるための準備について実感することが多くなってきました。実際に働き始めて失敗しながら気付いたり教わったりすることもあると思います。学生のうちに準備できることや予測できることは、できるだけやっておきたいと思っています。

高校卒業までにまだしばらく時間があります。社会人になるための心構えとして、

- 一・ニュースや新聞を見て世の中の流れを知ること
- 二・洗濯や掃除などの基本的な生活を自分でしっかりとできるようにすること

この二つを身につけておきたいと思っています。そして来年の春には胸を張って社会人としての第一歩を踏み出せるようにしたいと思います。



《編集委員》

大会部長	和田	克典
大会部員	高野	貴世志
	伊藤	均
	久保木	くら
	寺崎	久美子
	白田	京子
	山口	和彦
	根本	浩

〈主催〉 青少年育成稲敷市民会議

〈協力〉 稲敷市・稲敷市教育委員会・稲敷市学校長会

青
少
年
の
目
を
か
け
よ
う



《編集委員》

大会部長	和田	克典
大会部員	高野	貴世志
	伊藤	均
	久保木	くら
	寺崎	久美子
	白田	京子
	山口	和彦
	根本	浩

〈主催〉 青少年育成稲敷市民会議
〈協力〉 稲敷市・稲敷市教育委員会・稲敷市学校長会